

二宮金次郎とは何だったのか

臣民の手本から民主主義者へ、そして21世紀に蘇る報徳（仮題）



■著者…小沢祥司 ■判型…四六判上製 264P

■定価…1,800円＋税 ■ISBN…978-4-908443-26-8

【第1部 金次郎と報徳運動—地方再生への模索—】

1章 二宮尊徳とはだれか

一家を再興した金次郎／企業家・財政再建者としての金次郎／仕法は実践をこそ尊ぶ／地域再建マニュアルの作成—「仕法雛形」／再建途上の死

2章 報徳運動のはじまり

「勤儉譲」と互助のしくみ／報徳、遠江国に伝わる／遠州報徳七人衆／受け継がれる報徳思想

3章 時代に翻弄される相馬藩と報徳仕法

王政復古／奥羽越列藩同盟と浜通りの戦い／頓挫した相馬の「興国安民法」／土地制度と税制の大変革／大隈インフレから松方デフレへ—相馬仕法のゆきづまり／北海道に新天地を求めて

4章 報徳運動の広がり

報徳金と近代金融の芽生え／『報徳記』と金次郎像の誕生／品川弥二郎と信用組合制度／報徳社こそ信用組合／信用組合法の成立／遠州のふたつの報徳運動／誰が金次郎を受け継いだか

【第2部 つくられたヒーロー—国家戦略と金次郎像—】

5章 教育勅語と金次郎像

良一郎のふたりの息子／教育勅語—「臣民」を育てる教育／内村鑑三不敬事件／教科書疑獄から国定教科書へ／手本は二宮金次郎／つくられたヒーロー／忠義の士、吉田松陰

6章 国家主義の台頭—戦争への道

日露戦争と日比谷焼打事件／内務省と一木喜徳郎／二宮尊徳先生五十年記念会／官製報徳運動—「報徳会」の設立／地方改良運動—臣民としての規範と規律／大正デモクラシー／青年団運動—皇国・国体の若き礎／大日本報徳社—報徳運動の統一／国家主義の台頭／二・二六事件と一木喜徳郎／日米開戦からポツダム宣言受諾へ／戦争終結への決断

7章 民主主義者としての二宮金次郎

東條英機の捕縛／軍人政治家と新聞人—東條英機と大石光之助／東條と戦争責任／フェラーズの進言—昭和天皇の戦争責任回避／新憲法のGHQ草案／GHQと金次郎との遭遇—報徳座談会／GHQの対日政策／近世日本が生んだ最大の民主主義者、二宮金次郎／金次郎の新しい役割 おわりに—一権力者が二宮金次郎を必要とする時代

今、道徳の教科書に金次郎が復活している。

江戸末期、貧しい少年期の経験から編み出した、「仕法」と呼ぶ財政再建と、合理的節約法「分度」によって、北関東の藩や武家、そして農家の財政立て直しを行った二宮金次郎。その姿は**私たちが金次郎像として持っている農民と言うより、企業家であり銀行家であった。**

下って明治期には、彼の再建手法は報徳運動として全国に広がり、日本帝国を支える「臣民」の手本とされ、修身の教科書に現れた金次郎。

ところが、戦後になるとGHQから日本型民主主義の体現者として称賛され、再度日本国民の前に現れた二宮金次郎。

歴史の深層から、**時々の権力者によって塗りかえられた「金次郎像」を掘り起こしてゆく。**

小沢祥司（おざわ・しょうじ）

生物多様性保全、再生可能エネルギー、環境エネルギー政策、持続可能な地域社会、環境保全活動や企業の社会的責任を軸に発言してきた環境ジャーナリスト。大日本報徳社のある静岡県掛川市の出身で、尊徳は20年来のテーマ。東日本大震災と原発事故後にやはり尊徳と関わりの深い福島県相馬市を訪れたことをきっかけに、明治維新後の二宮尊徳像や報徳運動を詳細に掘り起こしてきた。

著書に『電力自由化で何がかわるか』（岩波ブックレット）『飯館村—6000人が美しい村を追われた』（七つ森書館）

発売予定

2018年4月上旬

注文締切

2018年3月20日

FAX でのご注文は

（西日本出版受注センター）

FAX : 06-6310-7057

(TEL : 06-6338-3078)

大阪府吹田市南金田 1-11-11-202 HP : <http://www.jimotonohon.com/>

発行：西日本出版社

書店名(番線)	二宮金次郎とは何だったのか		日付	注文数 (新刊委託)	冊
	臣民の手本から民主主義者へ、 そして21世紀に蘇る報徳（仮題）		ご担当		
	ISBN978-4-908443-26-8				
	■著者…小沢祥司 ■判型…四六判上製 264P ■定価…1,800円＋税				
	〒564-0044 大阪府吹田市南金田 1-11-11-202 号 TEL:06-6338-3078 FAX:06-6310-7057				■発売／西日本出版社